

三永水源地築造工事 ～第2期拡張事業(昭和13年～18年)～



▲水道拡張起工式記念絵葉書(昭和13年11月)



▲三永水源地の完成予想絵葉書



▲導水線路の完成予想絵葉書

■呉市独自による水源開発の検討

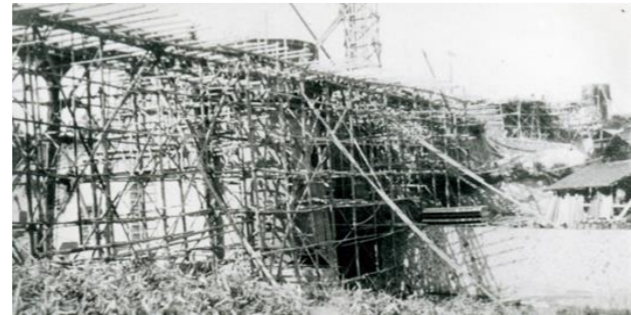
海軍の増強に伴い市勢は発展を続け、昭和3(1928)年4月には、吉浦町、警固屋町、阿賀町の3町を合併し、さらに度重なる干ばつで、毎年のように深刻な水不足を経験していました。

一方、水源は海軍からの余水分与のみであり、海軍の需要拡大によって、さらなる増加を求めることはできない状況にありました。

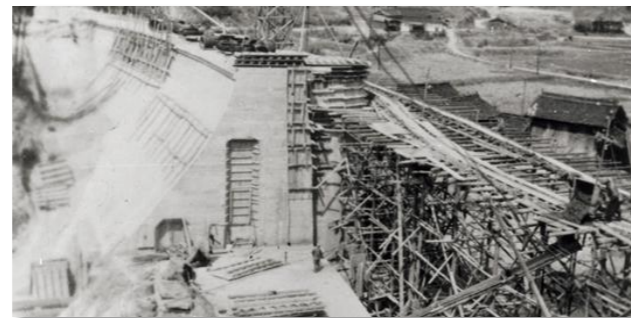
そこで、これを打開するための水源拡張が喫緊の課題となり、昭和13年に三永水源地築造が決定するまで、次に示す六つの案が検討され、当時の市議会の論争の種となりました。

- ①「打田案」安芸郡焼山村に85万立方メートル貯水池築造
- ②「二河案」二河奥に60万立方メートルの貯水池築造
- ③「長谷案」賀茂郡郷原村字長谷に250万立方メートル貯水池築造
- ④「郷原黒瀬川案」賀茂郡郷原村に貯水池を築造し、黒瀬川上流に取水場設置
- ⑤「太田川案」広島市内の太田川に取水施設を築造(戸坂浄水場原案)
- ⑥「下三永打田案」現在の三永水源地

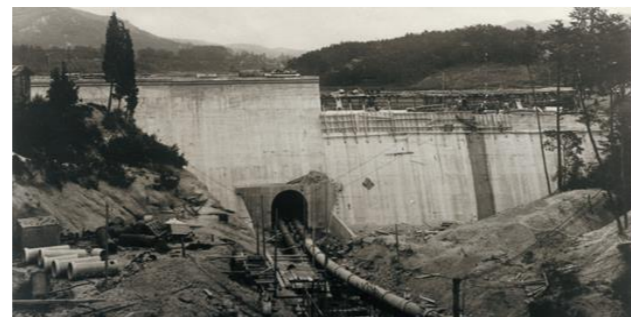
検討の結果、昭和13年1月の市議会で「下三永打田案」の水源地拡張を含めた第2期拡張工事計画が全員一致で可決されました。



▲堰堤築造工事の足場の様子



▲堰堤築造工事



▲導水管布設工事

■三永水源地の築造

第2期拡張事業は、昭和13年11月に着工し、264万立方メートルの貯水量を持つ水源地や26キロメートル離れた平原浄水場への長距離の導水路は戦時下の物資不足・人手不足という悪条件下にもかかわらず、約4年後の昭和18年2月に完成しました。

このような短期間で完成できたのは、呉市民の利益だけでなく、当時の軍都「呉市」への給水が急務であったからだと思います。

なお、第2期拡張事業は昭和18年3月に竣工し、一日最大配水給水量は34,500立方メートルに増強され、吉浦町、警固屋町、阿賀町への給水を開始しました。



▲三本杉から左の松林までが堰堤築造予定地



▲三永水源地から平原浄水場への着水記念(平原浄水場にて)(昭和18年2月)



▲現在の三永水源地堰堤